



JSQC ニュース

No.271

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス (社)日本品質管理学会設立35周年記念Webあゆみ
- 2-私の提言 改めて“品質第一”の風土づくりを!
- 2-ルポルタージュ 第309回関西事業所見学会ルポ
- 3-第316回中部事業所見学会ルポ/7月の入会者紹介/研究報告書頒布
- 4-総会のお知らせ/行事案内/会費請求/論文募集

(社)日本品質管理学会設立35周年記念Webあゆみ

早稲田大学理工学部 JSQC35周年WGリーダー 棟近 雅彦

今年度は、本学会設立35周年にあたる。本学会では、これまでに15、20、25、30周年に記念事業を行ってきた。35周年の記念事業に関しては、事業を実施するか否かを含めて、その内容について34年度の理事会から検討を行ってきた。その結果、大がかりな記念式典は実施しないこととしたが、貴重な資料である「(社)日本品質管理学会のあゆみ」については、電子化して継続することにした。

5年ごとの記念事業では、記念事業のための予算を積み立て、主に記念式典やあゆみの作成に使用してきた。30周年においては、寄付金を集めて品質管理推進功労賞や奨学金制度の立ち上げを行っている。

15周年が最初の記念事業であるが、15年というのは学会が会員数や予算の面で安定してきた段階であり、社団法人となって10年が経過した時期でもあったので、記念事業を行うにふさわしい時期であったといえるであろう。あるいは、はじめて記念事業を行える余裕ができたのかもしれない。また、20周年、30周年は10年ごとの節目であり、25周年は四半世紀という意味合いで、それぞれ記念事業を行う意義がある。では、35周年、45周年、55周年はどうであろうか。もちろん5年ごとの節目であるが、それほど重みはないであろう。また、記念式典の開催やあゆみ

の発刊には少なからぬ経費がかかる。それよりも、学会員に対して有益な事業に対して予算を使うべきではないか。このような議論から、34年度理事会では、今後は10年ごとの節目では記念事業を実施し、45周年、55周年などでは実施しないという方針を決めた。

これまでの記念事業で、必ず実施したのが記念式典の開催とあゆみの発刊である。あゆみには、毎回研究・技術のあゆみとして、品質誌や研究発表会で発表された論文のリスト、各賞の受賞者リストを、歴史として本学会周辺の出来事および社会情勢についての年表を掲載している。論文リストは、研究者にとって文献データベースとして有用であり、年表は本学会発展の歴史を記録するために貴重である。5年後の40周年に作成してもよいが、2、3年で交代する理事が運営している状況では、これらの記録をあらためて10年ごとに洗い出すのは大変である。そこで、研究・技術のあゆみと年表については、今年度に作成することになった。

5年ごとの記念事業は、経費の面から問題があると述べたが、実は記念事業の経費のうち、あゆみの発刊がかなりの部分を占める。また、紙媒体で記録を残していくことは、保管も容易でなくメンテナンスもやりにくい。そこで、紙媒体の冊子による発行はやめて、JSQCホームページにあゆみのページを作成して掲載することにした。こう

すれば、5年ごとではなく毎年更新していくことが可能であるし、会員が検索する際にも容易となる。当然、経費削減にもなる。

内容はこれまでのあゆみを踏襲し、研究・技術のあゆみでは品質誌掲載内容要約、研究会活動報告、研究発表会・シンポジウム発表テーマ一覧、受賞者リストを、年表にはJSQC、海外のQC関連の動向、QC関係団体・学会の動向、社会情勢を掲載する予定である。会員の方々には、貴重なデータベースとして活用いただき、掲載内容等についてご意見をいただければ幸いである。

あゆみを電子化することで、今後は紙媒体の冊子は発刊しない予定である。一部の会員の方々には、IT環境が十分でなく紙媒体も必要では、という意見もあったが、既に名簿をCD-ROMで発行しており、その際にも大きな混乱はなかった。名簿の際の経費削減効果もかなり大きいものがあり、長期にわたってJSQCの会費を据え置くことができているのは、このような経費削減によるところが大きいということ、会員の方々にはご理解いただきたい。なお、今回の削減分の用途は現理事会にお任せしているが、品質管理推進功労賞や奨学金など、記念事業を契機に開始された制度を維持するために活用するのが、予算の主旨からも合っているのではと考えている。

● 私の提言 ●

改めて“品質第一”の風土づくりを！
— 人財育成と技術・KHの伝承がキー —

富士ゼロックス(株) 釜谷 佳男



バブル崩壊後低迷してきた経済界もようやく景気回復の兆しが見えてきた。一方で品質問題や安全問題などで毎日のようにマスコミをにぎ

わしている。このようなりコールに結びつくような品質問題、安全問題の背景には'90年代の効率追及、生産性の向上の弊害が今現れてきているような気がしてならない。すなわち人財育成や、失敗から学んだことの蓄積・利用の徹底が追従できていないことが要因と考えている。

'80年代において日本製品の品質が世界一となり、安価（適正な価格）で、

入手できるようになった。その背景には現場に密着した日本的品質管理活動があり、これが“made in JAPAN”の強みだった。その当時の日本は、トップから第一線の人たちが品質第一を徹底し、品質向上を目指してきた。培ったK-Hや失敗事例からのナレッジは先輩から後輩へ、標準書や規準書、ナレッジデータベースへ反映され、積極的に再活用されていたように思う。欧米諸国のトップ、品質関係者がこぞって日本のメーカーにベンチマーキングとして勉強しにきたころでもある。

今日、商品は、高性能・多機能化し、製品／部品の標準化の進展や製品開発も高度にシステム化が進み、開発・生産のプロセスもIT技術の利用により効率化が進み、非常に短い期

間／サイクルで商品が開発され、競争激化の市場の要求にこたえている。しかし、昨今の品質問題や、安全問題を見ると、発売時期を死守せんがために開発プロセス、生産プロセス、全社システムとして、結果として“品質第一”の優先順位が下がっているような気がしてならない。わたしは、昨今の品質問題・安全問題は、「Qの確保」という基本的事項の“たが”が緩んできている結果と考える。

あらためて「Qの確保」のために必要なことは、人財の継続的育成と失敗事例の再活用を確実にする仕掛け／仕組みの両輪だと考える。又、これらを継続的に進化させるのは、真の“品質第一”の風土作りだと思う。さらには、開発・生産が国際分業化しても品質保証が機能する仕掛け／仕組みを、効率化と両立させる必要がある。継続的人財育成と商品開発／生産の仕組みの中に生かせるナレッジマネジメントシステムの構築と運用ができた組織が勝ち組として残れることになるだろう。

第309回関西
事業所見学会
ルポブリヂストン彦根工場の
品質向上活動

2006年6月22日に、第309回事業所見学会（関西支部）が滋賀県彦根市の(株)ブリヂストン彦根工場で開催された。当日は朝から雨であいにくの天候ではあったが、参加者は23名であった。

まず前原彦根工場長の挨拶に続き、彦根工場の概要が説明された。ブリヂストンの国内9工場のうち、この彦根工場が一番大きい。創業は1968年で中京、関西の各自動車メーカーの工場に近いこともあり、生産タイヤ（53000本／1日—ゴム量で270t）の約7割がメーカーへ直送される。

続いて簡単な製造工程のビデオ上映ののち、実際に工程を見せていただいた。一本のタイヤが出来上がるまでには、さまざまな工程を経ている。一見同じようなゴムに見えても、その実態はそれぞれの部位の要求特性に応じて数種類の異なるゴムとゴム以外の材料

（スチールコードや織布など）が使用されているようである。これら各部材（トレッド部、カーカス部、ビード部など）を1本のタイヤに成形し、加硫していく素早さはまさに脅威のワザであった。

見学後は品質保証課の長沼様より、彦根工場の品質向上活動の取り組みをお聞きした。68年に「デミング賞実施賞」を受賞、93年にISO9000、98年にQS9000、01年にTS16949を取得している。また01年よりAQS21活動（Action Quality Spiral up）活動を実施。スルスラクラク生産＝「よいものを標準通りに作って標準通りに流せる」ように活動を続けている。特に①動画標準のミガキあげ②モニタリングの強化③技能認定表の拡大を重点としてとりあげ活動している。①は4、5年前より、作業標準を動画標準とするように展開しており、この標準では良い例と悪い例を2画面表示で比較して見られる。製造作業者の1/4が動画標準を自分で作成できるそうである。

ブリヂストンの高度なモノづくり技術とそれを可能にする人への教育、伝承への情熱を強く感じた見学会であった。 和田 法明（バンドー化学(株)）

第316回中部 事業所見学会 ルポ

トヨタ自動車(株) 春日井事業所

さる平成18年5月26日(金)に第316回事業所見学会(中部支部第79回)が、トヨタ自動車(株)春日井事業所にて開催された。『「工場ショールーム化の取組み」活動概要』のテーマの元、43名が参加した。

同事業所は1987年より操業を開始し、トヨタホームのユニット工法の住宅を、現在では平均100ユニット/日、住宅にして7~8軒分の生産を行っている。見学会に先立った概要説明によると、実際に建設される住宅の約85%がこの工場内で生産され、残りの15%は住宅設置現場で施工されるということだ。この工法では、お客様に住宅を購入していただく際に、工場内で実際に住宅(ユニット)の中を見ることが出来るメリットがある。そこで、同事業所では「お客様に感動を与える」という目的で、工場そのものを「ショールーム化」するプロジェクトを2003年よりスタートさせた。この

活動は営業マンがお客様と商談する際にも、商品の高性能・高品質をアピールするという点で非常に有効であるとの説明があった。

工場をショールーム化するにあたり、いかに、丁寧なもてなしをするか、高性能・高品質をアピールするか、見やすくわかりやすい生産ラインにするかがポイントであるという。特に通路脇の部品棚の高さ制限、機械色の統一、溶接機側の安全と視認性の確保、わかりやすい案内表示、工場休日時のビデオ上映システムなど、見学者の視点で生産ライン改造に力を入れていた。その結果2005年は延べ1万人の見学者を受入れたという。見学の引率者の説明も非常に丁寧でわかりやすかった。また、現在流れている製品を注文されたお客様の写真の掲示など、お客様の納得感を高める活動に力を入れていることがよく理解できた。

質疑応答では、トヨタ生産方式を取り入れた住宅製造に関する質問など、時間が不足するほど活発な議論がなされ、参加者の興味も非常に高いものであった。

次は、個人的に住宅購入予定者として工場見学をしたいものと思った。

水谷 政昭(新日本製鐵(株))

2006年7月の 入会者紹介

2006年7月5日の理事会において、下記の通り正会員29名、準会員4名、賛助会員2社の入会が承認されました。

(正会員29名)

○李 宰昊(マーレフィルターシステムズ) ○小坂 耕志(ソフトバンクBB)
○日高 かおる(ベリタスマネジメント) ○島田 葉子(青葉会一橋病院)
○星野 雅之(沖電気工業) ○海野 孝・清水 透・安藤 弘一・平川 学(日本通運) ○小林 明史(サントリー)
○山崎 保明(イーグル工業) ○安藤 隆・大友 克之(朝日大学歯学部附属村上記念病院) ○堀江 城代(サン・フロー) ○岡 裕爾(日立製作所日立総合病院) ○上原 聖(KPMGエムエムシー) ○岡田 健・中山 重彦(旭硝子) ○内野 直樹(社会保険相模野病院) ○大屋 演子(愛知きわみ看護短期大学) ○上山 恵理(伊丹天神川病院) ○照屋 守和(仁愛会浦添総合病院) ○野田 利枝(森山医会森山リハビリテーション病院) ○内ヶ崎 西

事務局からのお知らせ

「環境マネジメントシステム研究会 研究報告書」頒布のお知らせ

この度、標記の成果が本学会の研究成果としてまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします。

1. 申込方法：E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、送付先住所、電話番号をご連絡の上お申し込みください。

申 込 先：本部事務局 E-mail apply@jsqc.org FAX 03-5378-1507

2. 資料代：1冊(A4判79頁) 会員1,200円(税込み) 非会員1,700円(税込み) 送料(冊子小包)：1冊210円、2冊290円 他多数の場合、事務局までご連絡ください。申し込みと同時に下記宛お振り込みください。

振 込 先：(社)日本品質管理学会

三井住友銀行 渋谷支店 普通預金 0922517

資料は入金を確認の上、郵送いたします。

作(日本大学) ○永松 陽明(日立製作所) ○宮崎 瑞穂(前橋赤十字病院) ○福井 信二(オムロン) ○丸木 一成(よみうりランドケアセンター) ○町田 欣史(NTTデータ)

(準会員4名)

○関野 光真・市江 剛之(東京理科大学) ○梶原 光徳(早稲田大学) ○芝田 巧(名古屋工業大学)

(賛助会員2社2口)

○日本通運 ○三菱重工業

正会員3042名

準会員104名

賛助会員172社199口

公共会員22口

第36回通常総会開催

(社)日本品質管理学会第36回通常総会を右記のとおり開催いたします。

日 時：平成18年10月28日(土) 9:30~11:00

場 所：筑波大学 第三学群棟 3A204室 (茨城・つくば)

行 事 案 内

●第315回事業所見学会 (本部)

テーマ：国内で最高階数・最大級の超高層住宅はどのような最新技術によって建設されるのか…

日 時：2006年9月22日(金)14:00~16:30

見学先：前田・大成建設共同企業体
勝どき6丁目再開発作業所

定 員：30名 (会員優先)

参加費：会 員2,500円 非会員 3,500円
準会員1,500円 一般学生2,000円
※当日払い

申込締切：9月21日(木)到着分

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第109回シンポジウム (関西)

テーマ：海外現地法人における人材育成

日 時：2006年10月3日(火)12:30~17:05

会 場：大阪・中央電気倶楽部
5階大ホール

プログラム：

講演1：猪原正守氏 (大阪電気通信大学)

講演2：岸元義照氏 (松下電器産業(株))

講演3：山田浩二氏 (株)小松製作所)

講演4：伊藤要蔵氏 (アイシン精機(株))

講演5：森沢 茂氏 (高畑精工(株))

参加費：会 員3,000円 非会員 4,000円
準会員1,500円 一般学生2,000円

申込方法：会員No.・氏名・勤務先・所属・連絡先を明記の上、関西支部事務局までE-mailにてお申し込みください。

●第36回年次大会・筑波大学 (本部)

日 時：2006年10月28日(土)

第36年度会費請求のお知らせ

第36年度 (2006年10月1日~2007年9月30日) 会費請求書を同封いたします。

郵便局自動引き落としを利用されている方には請求書を送付しておりません。10月25日に引き落としとなりますので、郵便口座の残高をご確認ください。

9:30~10:15 通常総会
10:20~11:00 各賞授与式
11:00~11:50 新会長講演
圓川隆夫氏 (東京工業大学)
13:00~17:50 研究発表会
18:00~19:30 懇親会

参加費：

研究発表会

会 員4,000円 (締切後4,500円)
非会員6,000円 (締切後6,500円)
準会員2,000円 一般学生3,000円

懇親会 会 員・非会員 4,000円

準会員・一般学生2,000円

申込締切：2006年10月18日(水)

申込方法：ホームページからお申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

●第112回シンポジウム (本部)

QMS有効活用及び審査研究部報告

テーマ：ISO9001システム構築の質向上と第三者審査の質向上
一審査員の目から見たQMS有効活用とは何か、組織に受け入れられる審査技術とは何か

日 時：2006年11月25日(土)10:00~17:00

会 場：日本科学技術連盟千駄ヶ谷本部
1号館3階講堂

定 員：150名

参加費：会 員5,000円 (締切後5,500円)
非会員7,000円 (締切後7,500円)
準会員2,500円 一般学生3,500円

プログラム：

特別講演「標準化100年の歴史」

和泉 章氏 (経済産業省)

活動概要「QMS有効活用及び審査研究部活動について」

福丸典芳氏 (部会長, (有)福丸
マネジメントテクノ)

活動報告：

WG1「組織の求める有効性の向上に
役立つ審査技術」

WG2「効果的な内部監査」

WG3「TQMとの融合」

WG4「プロセスアプローチに着目した
審査技術」

「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

WG5「QMS審査員の力量向上」

情報提供「ISO9001改訂の動向」

平林良人氏 (副部会長, (株)テ
クノファ)

申込締切：2006年11月17日(金)

申込方法：ホームページからお申し込み
できます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1

(財)日本科学技術連盟

東高円寺ビル内

(社)日本品質管理学会

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail:apply@jsqc.org

事務局携帯:090-9128-7979

関西支部：530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-25

(財)日本科学技術連盟 大阪事務所内

(社)日本品質管理学会 関西支部

TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail:kansai@jsqc.org

■開催延期

ニュース270号 (8月発行) でご案内した「医療のための質マネジメント基礎講座 (医療の質・安全部会主催)」は、開催が延期されました。日程が決まり次第、ホームページでお知らせいたします。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji.html>